

2022年度(令和4年度・第9期)事業報告

一般社団法人 全国コミュニティ財団

総括	休眠預金を活用して、コミュニティ財団設立支援に取り組むとともに、各財団が培ってきた実践事例・ノウハウ等を共有する機会を作ることができた。新型コロナウイルスの感染収束の見通しが立たない中だったが、徐々に対面での研修機会等も増やし、3年ぶりに年次大会をリアル開催することができた。研修としては、PO(プログラムオフィサー)の工具箱、コンプライアンス研修など新たな取組を試行し始めた他、日本ファンドレイジング協会と連携して研修プログラム開発を行うこともできた。次年度以降は、協会が蓄積してきた伴走支援の知見や各コミュニティ財団のノウハウ等を整理・体系化して、今後の支援に生かしていくような動きを作っていく。
----	--

新規/継続	種別	事業名	事業計画	事業成果	パートナー	担当	事業収益
(1) コミュニティ財団や地域社会についての調査研究							
継続	自主事業	宗教文化と寄付に関する研究	日本における神社仏閣などの宗教と寄付の関係について、海外とも比較しながら在り方を考える。	特に実施しなかった。	自主	石原	0
継続	自主事業	プロスポーツとの連携による地域社会の価値創造に関する研究	地域におけるプロスポーツとの情報交換を年数回行いながら、CFとプロスポーツの連携事例について調査する。	特に実施しなかった。	自主	山田	0
継続	助成事業	地元企業におけるソーシャルビジネス調査	休眠預金事業の一環として、各地域において協働しないしは助成先となりうるような地元企業によるソーシャルビジネス事業のモデル事例を調査し、オンライン上のレポートにまとめる。	noteに「地場企業によるソーシャルビジネスの現場を知る」を連載。2022年度は1本更新した。 https://note.com/cf_japan/m/mdc2a37e2e359	JANPIA	石原	0
新規	助成事業	コミュニティ戦略を持った経営戦略策定状況の調査	休眠預金事業の一環として、各地域でCFが地域戦略をもった経営戦略の策定がどう進んでいるか、その課題やポイントは何かを事例から明らかにする。	次年度に持ち越しとなった。	JANPIA	高橋	0
(2) コミュニティ財団業務の改善についての研究企画							
継続	助成事業	第三者認証及び通報窓口の運営	コミュニティ財団の第三者認証制度のあり方を再検討する。	制度設計時から外部環境が変わっていることから、実施体制変更等を継続検討している。	全国NPO事務支援カンファレンス、非営利組織評価センター	石原	0
継続	助成事業	災害時における寄付募集プラットフォームの提供	会員CF等に災害発生時の支援金基金募集のウェブプラットフォームを提供する。また、別途、他組織と寄付募集を効率化するための協働取組の仕組みを検討する。	災害クラウドファンディングの活用申請はなかった。新たにYahoo! ネット募金に全国コミュニティ財団協会のアカウントを開設して、発災時に寄付募集をできる体制を整えた。また、東京コミュニティ財団と会員財団の連携による災害時寄付募集の仕組みづくりも継続検討している。	Yahoo! ネット募金(ヤフー株式会社)、東京コミュニティ財団	宝楽	0
継続	自主事業	プログラムオフィサーに関する研究	プログラムオフィサーのあり方に関する研究を行うと共に、そこから得られた知見を研修の形で会員などに還元する。 ・研修:POの工具箱研修	コミュニティ財団として、どのように成長をしていくか、どのように地域と関わるか、コミュニティ財団への入職から3年未満の助成事業担当者(PO)を主な対象として、助成の企画・公募・審査に関する研修を開催した。 ●2022/4/5,26,5/10,6/14,7/15:POの工具箱Ⅰ「問題を定義し、助成事業を企画する」 ●2022/4/8,21:POの工具箱Ⅱ「審査会の前と後」	自主	鈴木	350,000
(3) 関係団体、機関、官庁などに対する意見の開陳ならびに連絡							
継続	自主事業	各種政策への提言、ロビイング	プログラムオフィサーの在り方、助成における伴走支援の必要性や在り方について整理し、提言を行う。	寄付規制新法に関する研究会に参加し、コミュニティ財団がどのような影響を受けるか状況を追っている。	宝楽	—	0
(4) 会員の職員などに対する研修の実施ならびに会員の行う教育についての調査研究							
継続	自主事業	理事及び監事研修の実施	CFの理事及び監事に必要な目線や担うべき役割に関する研修を開催する。 ・コンプライアンスに関する連続研修	役職員を対象とした、コミュニティ財団のコンプライアンスに関する研修を開催した。また、休眠預金事業の実行団体向け研修に会員財団もオブザー参加できるようにした(計2回)。 ・コンプライアンスに関する連続研修(第1回)コンプライアンスの基礎(第2回)事例から学ぶ個人情報保護のポイント(第3回)クレーム対策の意義	—	山田・小阪・石原	100,000
継続	自主事業	休眠預金に関する事業の理解を深めるセミナー	休眠預金事業の一環として、休眠預金を財源とした助成制度に関する理解を深めるためのセミナーを公募説明会と併せて開催する。	休眠預金活用事業(2021年度通常枠)の公募説明会と合わせて、コミュニティ財団空白地域において、コミュニティ財団の意義や休眠預金を活用例などを紹介するセミナーを、指定活用団体JANPIAと実施した。 ●2022/4/25 香川会場(高松市市民活動センター) ●2022/4/28 山梨会場(山梨県立やまなし地域づくり交流センター) ●2022/5/13 山形会場(山形テルサ) ●2022/5/17 群馬会場(グリーンロード前橋) ●2022/5/20 青森会場(リンクモア平安閣市民ホール)	JANPIA	志村	0
(5) 会員相互が連携して実施する事業の企画ならびに実施							
							(2,370,000)

新規/継続	種別	事業名	事業計画	事業成果	パートナー	担当	事業収益
継続	自主事業	会員CF対談	会長と各地のコミュニティ財団とのオンライン対談を開催する。	会長と各地のコミュニティ財団とのオンライン対談を行い、各財団の成り立ちや取り組みなどを紹介する3本の動画を公開した。 [2022年度公開した動画] ・公益財団法人うんなんコミュニティ財団 ・公益財団法人京都地域創造基金 ・一般財団法人未来基金ながさき [再生リスト] https://youtube.com/playlist?list=PLsYlrDxMQrIXatSm8auZ5G6fQUmTIOXCW	自主	山田	0
継続	自主事業	バックオフィス支援事業	会員CFのバックオフィス支援のマッチングを行う。	新設コミュニティ財団等のバックオフィス支援を行う事業を京都地域創造基金と連携して実施した。 [2022年度の支援先] ・公益財団法人わかやま地元応援基金 ・公益財団法人うんなんコミュニティ財団	京都地域創造基金	可児	1,170,000
継続	協働事業	遺贈寄付の推進	全国レガシーギフト協会と連携して、遺贈寄付をどう地域に生かすかに対する理解促進や相談対応に関する研修の実施などを行う。また、会員財団等と連携して、遺贈寄付ウィークに全国同時開催企画を実施する。	全国レガシーギフト協会が実施する「遺贈寄付ウィーク」に合わせて、全国のコミュニティ財団や中間支援組織と連携した同時開催企画を行い、8地域・会場、103名の参加を得た。また、メディアに2件掲載された。 [開催実績] ・認定特定非営利活動法人 北海道NPOファンド(北海道) ・特定非営利活動法人市民社会サポートやまがた(山形県) ・特定非営利活動法人市民立ぐまNPOセンター(群馬県) ・特定非営利活動法人まちづくりリスポット(岐阜県) ・一般財団法人えひめ西条つながり基金(愛媛県) ・公益財団法人 佐賀未来創造基金(佐賀県) ・一般財団法人 未来基金ながさき(長崎県) ・公益財団法人みらいファンド沖縄(沖縄県)	全国レガシーギフト協会、日本ファンドレイジング協会	可児	1,200,000
継続	助成事業	ブロック勉強会	各ブロックにおいてテーマを設定し、会員CFや関係団体を講師に招いた勉強会を開催する	各ブロックでの相互交流・学び合いを支援するため、開催費用の一部を協会の予算から支援した。 [開催実績] ●2023/3/30:北海道・東北ブロック及び関東甲信越ブロック(合同開催) ●2023/2/3:中部・北陸ブロック ●2023/3/31:近畿ブロック ●2023/3/2:中国・四国ブロック ●2023/3/19:九州ブロック	自主	ブロック長	0
継続	協働事業	寄付月間	日本ファンドレイジング協会などが展開する寄付月間の取り組みに参画し、寄付に関する啓発や推進を行う。	日本ファンドレイジング協会などが展開する寄付月間の取り組みに推進委員、共同事務局として参画し、寄付に関する啓発や推進を行った。	寄付月間実行委員会	志村	0
(6) 地域の課題解決に取り組む事業に対する支援に必要な資金等の資源を募り、確保する事業							(0)
(7) 地域の課題解決に取り組む事業に対する助成、顕彰等を行う事業							(82,659,045)
継続	助成事業	地域の中小企業の社会事業化を支援する若手支援者の育成事業<休眠預金活用事業(2020年度通常枠)>	北陸・四国において、新しい資金循環の担い手となる資金仲介組織(市民ファンド・コミュニティ財団等)及びその運営を担う若手人材を育成し、NPO・中小企業の社会事業化を支援する。	地域において、地場中小企業のコミュニティビジネス化を支援する新しい資金循環機能及び担い手となる若手人材を育成する事業を公募し、4団体に助成・伴走支援を行っている。実行団体の事業開始2年度目となり、財団設立・公益法人化、助成事業開始など、助成の成果が徐々に見られるようになってきた。 [実行団体] ・一般社団法人リズカール ・公益財団法人あくめ ・認定特定非営利活動法人まちづくりリスポット ・認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議	JANPIA	可児(鈴木・石原・高橋)	47,356,436
新規	助成事業	休眠預金活用事業(2021年度通常枠)	日本海東北・北関東・四国において、新しい資金循環の担い手となる資金仲介組織(市民ファンド・コミュニティ財団等)及びその運営を担う若手人材を育成し、NPO・中小企業の社会事業化を支援する。	地域内の資金循環を生み出す組織づくりとそれを担う若手人材育成を支援するスタートアップ助成事業を公募し、4団体に助成・伴走支援を行っている。実行団体の事業開始1年度目のため、コミュニティ財団に対する理解を深めるとともに、組織内や地域のステークホルダーとの対話の機会を作り、何を目的に、どのような機能が必要なのか検討することに力点を置いて取り組みを進めてきた。 [実行団体] ・特定非営利活動法人市民立ぐまNPOセンター ・特定非営利活動法人わかごと ・ほくりくみらい基金準備委員会 ・合同会社ドラマチック	JANPIA	志村・可児(鈴木・石原・高山・宝楽など)	35,302,609
(8) 会員相互の親交、連絡、情報共有							(0)
継続	助成事業	年次大会及びブロック会議の開催	「伝統宗教と寄付」や「休眠預金活用」などのテーマを「コミュニティ」を軸に語る分科会を設定した年次大会を開催する。	「地域の未来をつくるコミュニティ財団の可能性」を全体テーマに、2023年1月11日に龍谷大学深草キャンパスにて開催し、約60名が参加した。休眠預金事業の実施報告及び実行団体研修の一環として開催し、20年度・21年度通常枠から4団体に活動の成果を発表してもらったとともに、「休眠預金」「遺贈寄付」「インパクト投資」「コミュニティ自治」をテーマとした分科会を設け、それぞれの観点からコミュニティ財団が地域にあることで発揮できる役割・貢献等について議論した。 https://youtube.com/playlist?list=PLsYlrDxMQrIWP1xokbEFeRd5G8xIKic31	全国レガシーギフト協会、日本ファンドレイジング協会	可児、近畿ブロック会員財団	0
(9) 前各号に掲げる事業に付帯する又は公益に関連する事業							(0)

新規/継続	種別	事業名	事業計画	事業成果	パートナー	担当	事業収益
継続	自主事業	講師等派遣	コミュニティ財団の設立・運営や現状等に関する	2022年度は以下の4件の依頼に対応した。 ●2022/5/18:SRフォーラム2022「非営利組織のガバナンス拡充を進めるために -146団体アンケートから考える-」 ●2022/11/12:ガチな資金調達で一度むけたいNPOのためのセミナー&ワークショップ ●2022/11/6,12/4:協働提案型ファンドレイジング専門コース研修(JFRAとの共同開発研修) ●2023/3/21:2020年度採択資金分配団体向けプログラム・オフィサー研修講師	自主	理事・事務局	250,000
継続	自主事業	ウェブサイトの運営	全国コミュニティ財団協会のウェブサイトやメールマガジンによる様々な情報発信を行う。	ウェブサイトやSNS等で情報発信を行った。	自主	事務局	0

2022年度(令和4年度・第9期)組織運営報告

一般社団法人 全国コミュニティ財団協会

総括	<p>組織運営として大きな変更点は「会員規約」を更新したことである。従来、設立時資産の条件を満たせない既存の一般法人や公益法人等は正会員になることができなかったが、PSTに準拠した実績がある場合、市民性が認められると判断し、入会できることとした。これによって、後天的にコミュニティ財団化を目指したい団体が入会し、ともに活動できる環境を整備することができた。一方、経理を中心とした事務局体制が整っていなかったことによって以下の2点について、緊急の対応を要する事案が発生した。なお、この2件については既に緊急対応及び再発対策済みである。</p> <p>①総会の開催遅延 当初、定時社員総会は2022年6月21日開催予定だったが、監査及びに決算理事会後に決算書の誤りが相次ぎ発覚したことで、修正が間に合わなかったこと等によって開催が遅延することになった。前年度の未払支出を年度をまたいで二重計上していたり、按分支出の計算式の誤りなどが要因であった。経理担当者等の従事する者の役割分担や手順をクリアにして、再発防止策を講じた。</p> <p>②日本財団助成事業の返還 2016～18年度に実施した日本財団助成事業において、18年度分事業の監査の結果、12,782,000円を返還した。そのうち助成金の未執行額が4,691,000円で、支出として認められなかった8,091,000円が自己負担となった。また、16年度と17年度も再監査を受け、結果待ちとなっており、さらに返還が発生する可能性がある。当時は専従職員が不在で、余裕のない人員体制で取り組んだことやプロジェクト担当に雇用した職員や事務代行の担当者と本件についての経理方法の細かな確認が日本財団側と十分に行えていなかったことが原因であった。休眠預金事業と同様のことが発生しないようにチェック体制を強化して、再発防止策を講じた。</p> <p>今回の返還を受けて、今後、中長期で協会の財務状況を改善していくために組織基盤強化用の基金を設置し、資金調達を行った。</p>
----	---

社員総会				
・定時社員総会(年1回) ・臨時社員総会	定時社員総会	2022年8月29日(月)10:00～12:00	出席社員数 [16名(議長委任4名)]	オンライン
	臨時社員総会	2023年2月24日(金)15:00～17:00	出席社員数 [14名(議長委任3名)]	オンライン
理事会				
・通常理事会(年4回) ・臨時理事会 運営体制整備と各種規程の改定、整備を行う。 情報共有、決裁手続き等の整備を行う。	第1回理事会	2022年5月31日(火)10:00～12:00	出席 [理事8名 監事2名] 欠席 [理事0名 監事0名]	オンライン
	第2回理事会	2022年6月21日(火)15:00～17:00	出席 [理事6名 監事1名] 欠席 [理事2名 監事1名]	オンライン
	第3回理事会	2022年7月8日(金)18:00～20:00	出席 [理事8名 監事1名] 欠席 [理事0名 監事1名]	オンライン
	第4回理事会	2022年7月20日(月)16:30～18:30	出席 [理事7名 監事1名] 欠席 [理事1名 監事1名]	オンライン
	みなし決議	2022年7月25日(金)	—	—
	第5回理事会	2022年8月12日(金)16:00～18:00	出席 [理事5名 監事2名] 欠席 [理事3名 監事0名]	オンライン
	第6回理事会	2022年8月29日(月)12:00～12:30	出席 [理事7名 監事2名] 欠席 [理事3名 監事0名]	キャンパスプラザ 京都5F 第3演習室
	第7回理事会	2022年9月7日(水)10:00～12:30	出席 [理事10名 監事2名] 欠席 [理事0名 監事0名]	オンライン
	第8回理事会	2022年10月31日(月)9:00～11:00	出席 [理事8名 監事2名] 欠席 [理事2名 監事0名]	オンライン
	第9回理事会	2023年1月11日(水)10:00～11:30	出席 [理事8名 監事2名] 欠席 [理事2名 監事0名]	オンライン
	第10回理事会	2023年2月3日(金)14:00～14:30	出席 [理事9名 監事2名] 欠席 [理事1名 監事0名]	オンライン
第11回理事会	2023年3月31日(金)13:00～15:00	出席 [理事8名 監事2名] 欠席 [理事2名 監事0名]	オンライン	
コンプライアンス委員会				
コンプライアンス上の問題を的確に管理・処理し、公正かつ適正な運営を行う。	コンプライアンス委員会	2022年10月4日(火)13:00～15:00	規程通り年2回開催し、日本財団助成事業の返還にかかる対応や、コンプライアンス・ガバナンス体制の拡充状況の報告を行った。	オンライン
		2023年3月24日(金)13:00～14:00		オンライン
会員意見交換会				

会員と協会の事業や運営に関する意見交換の機会を持つ。	第1回会員意見交換会	2022年4月19日(火)15:00~17:00	2022年度の事業計画や会員制度改定に対する意見をもらうとともに、コミュニティを軸にコミュニティ財団を語る時間を設けた。	オンライン
----------------------------	------------	--------------------------	--	-------